

岡山市の財政

令和6年度予算 「～つなぐ、はぐくむ、躍動するまち岡山～」

令和6年度当初予算は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進むなか、社会保障関係経費の増加や、長引く物価高騰に加え、公共施設等の老朽化対策や防災減災対策に万全を期しつつ、

○街を楽しむ ○地域の振興及び歴史遺産等を活用した観光 ○子育て・教育の充実 等の各分野、

さらにはDX・GXの推進などの重要施策に取り組むとともに、今後の物価高騰対策等にも臨機応変に対応できるように、経常的経費の予算額の見直しや有利な財源、備えてきた基金の活用等により、将来負担の軽減を含めた一般財源を確保することで、過去最高額となった令和6年度の当初予算においても健全な財政運営を維持しつつ編成しています。

○当初予算の規模

(単位：億円)

区分	令和6年度当初予算	令和5年度当初予算	増減額	対前年度比
一般会計	3,856	3,623	233	6.4%
特別会計	1,980	1,992	△12	△0.6%
事業会計	767	768	△1	△0.2%
合計	6,603	6,383	220	3.4%

■ 一般会計は、過去最高となる 3,856億円

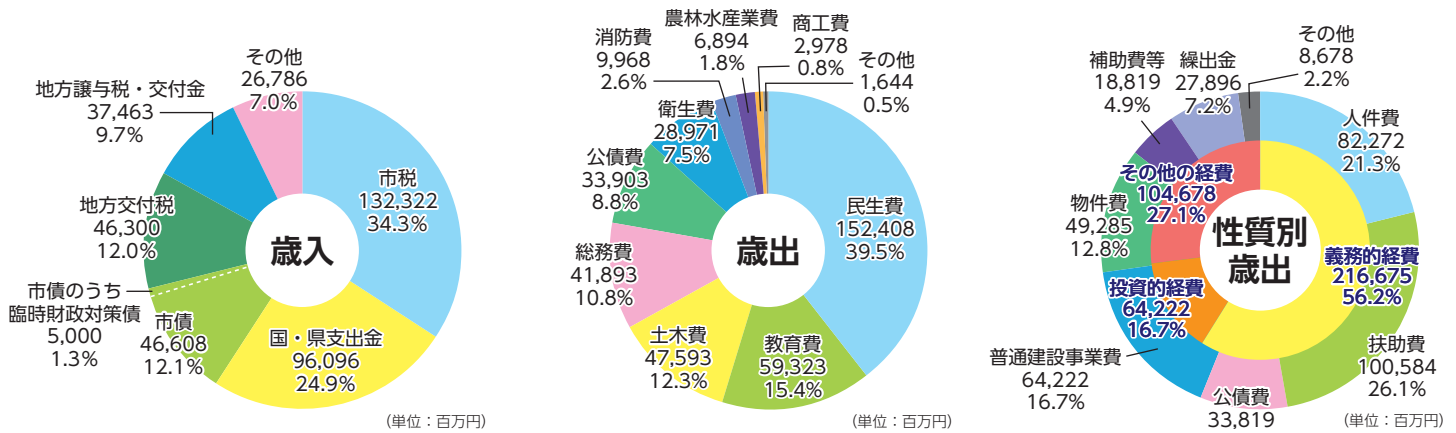
■ 一般会計、特別会計、事業会計を合わせた総額は 6,603億円

一般会計：市の基本的な事業に使う会計。歳出では、民生費、土木費、教育費など目的別に13費目

特別会計：特定の事業ごとに経理する国民健康保険費、介護保険費などの11会計

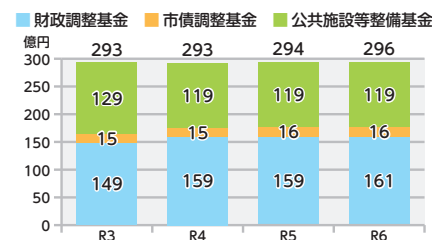
事業会計：病院事業、水道事業、工業用水道事業、市場事業、下水道事業の5会計

○令和6年度当初予算（一般会計）の内訳 総額 385,575百万円

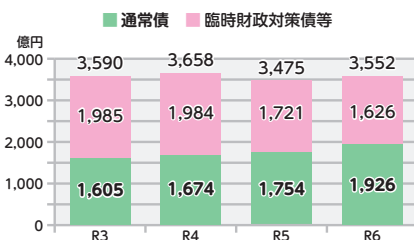


○財源調整のための基金、市債残高

当初予算編成時点の基金残高



市債残高（一般会計）



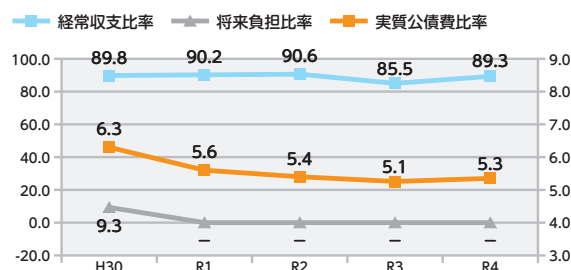
■あらゆる事態における迅速かつ機動的な対応への備えとして、基金残高は、前年度と同額程度を維持。

■一般会計全体の市債残高のうち、通常債の残高は増加。後年度に国から財源措置のある有利な市債の活用に努め、将来の返済が財政を圧迫しないよう管理。

臨時財政対策債等：返済のための財源が全額国から手当てされるもの

財政状況

将来世代に負担を先送りしないよう、中長期的な展望に立ち、財政運営の健全性を確保した上で、岡山市の持続的な発展と市民生活の充実に資する取組を各分野で着実かつ積極的に進めます。



財政指標（令和4年度決算）

- ① 将来負担比率 - (政令市 1位)
- ② 実質公債費比率 5.3 (政令市 6位)
- ③ 経常収支比率 89.3 (政令市 1位)

経常収支比率：財政構造の弾力性を示す指標。比率が低いほど弾力性が大きいことを示します。

将来負担比率：収入に対する負債現在高の割合。比率が低いほど将来の負担が少ないことを示します。

「-」は、充当可能財源等（基金等）が、将来負担額（地方債現在高等）を上回ることを示します。

実質公債費比率：収入に対する負債の返済割合。比率が低いほど財政を圧迫しないことを示します。